

令和元年度第3回千葉市図書館協議会議事録

1 日 時 令和元年12月19日(木) 10時00分～12時00分

2 場 所 千葉市消費生活センター3階 研修講義室

3 出席者

(1) 委員

吉野知義 委員長・綾部輝幸 副委員長

伊藤直樹 委員・松尾修一 委員・石渡明子 委員・倉沢良典 委員・十倉典子 委員

(2) 事務局

安部中央図書館長・高石みやこ図書館長・山崎花見川図書館長・石井稲毛図書館長

中島若葉図書館長・和田緑図書館長・村田美浜図書館長

稲葉中央図書館管理課長・平岡中央図書館管理課担当課長

太田中央図書館情報資料課長

(3) 傍聴人

8人

4 議 事

(1) (仮称)千葉市図書館ビジョン2040(素案)について

5 概 要

(1) (仮称)千葉市図書館ビジョン2040(素案)について

→ 審議の内容をふまえて、今後計画案の作成を進めることとした。

6 会議経過

<開 会>

○会議資料の確認

○事務局から委員の出欠報告

○事務局より協議会の成立について報告

○会議の公開について

○中央図書館長あいさつ

○図書館協議会委員長あいさつ

<中央図書館長あいさつ>

安部中央図書館長 皆様、こんにちは。本日はお足元の悪い中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、前回の夏に開催した図書館協議会では、次の図書館協議会を秋に開催するというご案内をさせていただきましたが、私たちが資料を慎重にまとめるためにお時間をいただいた結果、開催が冬になってしまったことについて、まずはお詫び申し上げます。

さて、先日、台風 15 号、19 号、そして 10 月 25 日の大雨がございました。これらの自然災害におきましては、皆様の中にも被災された方がいらっしゃるかもしれません。その方にはお見舞い申し上げます。図書館でも被災がありましたので、まずはその状況についてご報告申し上げます。

千葉市の図書館全 15 館のうち 4 館において被災がありました。まず、中央図書館ですが、台風 15 号の影響で小規模な雨漏りが発生しました。その後、10 月 25 日の大雨においては大規模な雨漏りが発生しました。これらについては、今年度中に修繕が完了するように、現在、準備を整えているところです。

続きましてみやこ図書館ですが、台風 15 号の影響でフェンスの一部が傾きましたが、修繕は既に完了しています。

続きまして稲毛図書館ですが、台風 15 号の影響で雨漏りが発生しました。天窗について、今年度内に修繕が完了するように準備を進めています。また、雨漏りで児童書が水に濡れてしまいました。これについては、中央図書館の児童書を稲毛図書館に持って行き対応しています。

最後に美浜図書館打瀬分館ですが、台風 15 号の影響で雨漏りが発生しました。今後、修繕を行う予定です。

このように 4 館において被災がありましたが、利用者の皆様には影響が及んでいない状況です。

さて、本日の図書館協議会ですが、いよいよ新しい図書館計画をまとめていくという段階に入っています。皆様の活発な議論、よろしくお願い申し上げます。

<図書館協議会委員長あいさつ>

吉野委員長 おはようございます。委員長の吉野でございます。本日は、冬の寒い中、委員の皆様にはお集まりいただきありがとうございます。また、市の職員の方もお集まりいただきありがとうございます。傍聴の皆様も本日の協議会を是非ご覧頂ければと思います。

本日の議題は(仮称)千葉市図書館ビジョン 2040(素案)についてです。前回の図書館協議会でも議論をいただき、内容がまとめられて、今回出されたということです。これからの千葉市図書館の将来像がどのようになるのか大変期待しております。本日は、こちらの素案についてご意見をいただき、できるだけ良いものにしていきたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

<議 事>

吉野委員長 議事(1)(仮称)千葉市図書館ビジョン 2040(素案)について、事務局から説明をお願いします。

平岡管理課担当課長 議事(1)(仮称)千葉市図書館ビジョン 2040(素案)について説明します。

≪議事(1)(仮称)千葉市図書館ビジョン 2040(素案)に関する説明≫

吉野委員長 ありがとうございます。広範囲なビジョンとなっていますが、ただいまの説明について、質問・意見がありましたらお願いします。

石渡委員 資料を事前にお送りいただきありがとうございました。とてもカラフルで見やすい資料でしたので、事前に内容を拝見させていただいたのですが、どういうことなんだろうと思う箇所がいくつかありましたので、質問させていただきたいと思います。

まず、カタカナの言葉が多用されていて、解釈がよくわからない箇所があります。

コンテンツという言葉がどのような事を指し示しているのか教えてください。全体的にコンテンツという言葉はよく使われています。おそらく本や資料に加えて、もう少し広い定義をしていると思いますが、そのあたりがわかりませんでした。

概要版 1 行目のデジタル・トランスフォーメーションもどのように解釈するのかわかりません。カタカナ言葉はどのようにも解釈できると思いますので、具体的に説明をお願いします。

平岡管理課担当課長 ご指摘いただきましたとおり、特にコンテンツという言葉は分かりにくいので、今後、解説を入れるなどしたいと思います。

イメージは、先ほど石渡委員が仰られたように、本や資料に加えて、今後実施する、人の記憶を見える化するためのインタビュー結果などもコンテンツに入ります。また、セミナーなどを開催すれば、新たな知も集まりますので、そういったものもコンテンツに含まれます。

今までは、図書館のコンテンツは、本が中心だったと思います。今後は、人の記憶の中にある知を掘り起こすなど、知を収集していく中で、図書館のコンテンツは本以外の部分に広がっていくと思います。

また、デジタル・コンテンツについても、確かに分かりにくいので、今後、整理していきたいと思います。ご指摘ありがとうございます。

石渡委員 デジタル・トランスフォーメーションという言葉について、解説をいただいてもよろしいですか。

平岡管理課担当課長 デジタルによるトランスフォーメーション、つまり変革を意味していますので、デジタル化によって産業や人の生活などいろいろなことが変わっていくイメージです。記載については工夫したいと思います。

石渡委員 世界がデジタル化を起しているのです、それによって社会構造が変革していく、という意味でしょうか。

平岡管理課担当課長 そういう意味でとらえていただいて構わないです。

石渡委員 市民が一読して分かる文章が良いと思います。

平岡管理課担当課長 デジタル・トランスフォーメーションは解説を入れるなど、今後、検討していきます。

吉野委員長 ありがとうございます。委員の皆様から順番にご意見を伺いたいと思います。次は松尾委員をお願いします。

松尾委員 素案については、なかなか良く整理されてまとまっている印象です。

前回も申し上げましたが、レファレンスについては、司書の専門性を把握するような工夫が必要だと思います。例えば、産業が得意な人、歴史が得意な人など、いろいろな司書がいる中で専門分野が偏っているのは、図書館全体の専門性が保てないと思うので、そういう部分も工夫すると良いと思います。

伊藤委員 説明ありがとうございました。分かりやすかったのですが、(仮称)千葉市図書館ビジョン 2040 でキーワードになっている「知」という言葉が、本による知を指しているのか、市民が持っている生活の工夫など様々な知恵を指しているのか、その辺りをはっきりしてほしいと思いました。具体的に、どういう「知」をイメージして考えているのか、あまり伝わってきません。「知」を集めて、市民に活用してもらうことはとても良いことだと思いますが、果たしてどれほど「知」が集まるのか、どのような「知」が集まるのか、それが今後の千葉市図書館の特色であり特長になると思います。また、どれだけ「知」を収集できるか、どれだけ「知」が活用できるかが課題になると思います。

私は中学校に勤務していますので、「未来を担うこどもたちの読書環境の充実」に注目させていただきました。「こどもたちが利用しやすい読書環境の整備・充実」という項目について、本編の説明を読みましたが、具体的にどうするのか伝わってきませんでした。こどもたちが利用しやすい読書環境の整備・充実は、当然やっていただかないと困ると思います。今までとどう変わるのか、その辺りを明らかにしていただくと、こどもたちが利用しやすいだろう、どんどん図書館に行きたくなるだろう、ということがイメージできると思います。

吉野委員長 ありがとうございます。綾部委員をお願いします。

綾部副委員長 説明ありがとうございました。(仮称)千葉市図書館ビジョン 2040 の作成にあたり、大学の先生など有識者からインタビューをされたということで、例えば(P.6) 知の拠点として果たすべき役割のイメージなども書かれていて、有識者からの意見が多く反映されていると感じました。

冒頭に「知の拠点」を目指すこと、続けて地域の「知」の収集・保存などが挙げられています。それらが冒頭に書かれるのは、かなり大胆だな、というのが第一印象でした。そこまで強調して良いのか、ということの思いながら、いろいろな資料を確認したところ、千葉市図書館に関する市民意識調査の中で、地域の「知」の収集・保存はかなり挙げられていたと思います。そうした資料を見ると、アンケートの結果も高く、地域の「知」について冒頭に書くことも大胆なことではなく、目標として妥当なのかな、と感じています。

(P.6)基本理念の中の、知の拠点として果たすべき役割のイメージについてです。青い丸が現状の図書館、2つの赤い丸が、知の収集・保存、知の利活用として表さ

れています。この辺りは、大学図書館の先生の影響を受けた箇所かと思います。

大学図書館では、知の収集・保存に関しては、知的資源を集積し、学術論文などを電子化して発信するリポジトリについて、知の利活用に関しては、人的なサポートを加えた学習支援について、ここ十数年間、とても力を入れて取り組んできたところです。公共図書館である千葉市図書館もそうしたことを目指すということは、大学図書館で携わってきた者としては、非常によく理解できますし、賛同したいところです。賛同したいということを前提として、さらに2つのことを申し上げたいと思います。

1点目は、大学図書館が全力でやってきたことが、そのまま公共図書館がやるべきことにならないだろうということです。市民はどう受け止めるか、どう思うか考えてほしいと思います。さきほど、コンテンツという言葉が分かりづらい、という話がありましたが、まさにそのとおりで、市民に伝わる、市民のニーズに合ったものを探っていかなければいけないと思います。

2点目は、本を超えた知の収集・保存、場を活用した様々な人的支援は、予算・組織・人材育成などに相当な力を注がないと、とても実現できないということです。

コラム～未来の図書館～についてです。コラムでは、いろいろな声がかかれていて、おもしろいし、わかりやすいと思いました。それはとても良いことなのですが、(仮称)千葉市図書館ビジョン 2040 の本編でコラムを参照するようになっているので、最初は実際の利用者の声がかかれていたと誤解をしてしまいました。市民にはあまり好ましくないと思いますので、誤解のないような表記を考えていただければと思います。どうしたらよいか考えたのですが、「未来の図書館サービスとその利用者の声をイメージしたもの」がこのコラムだと思います。そのようなことをコラムの冒頭に記載し、誤解がないようにしていただきたいと思います。

さらにコラムがおもしろいことを前提に、こういうコラムがあった方が良くと思うものを挙げさせていただきます。

1点目が、本編で少ししか出ていないのですが、外国人の利用について、2点目が、本編にとどき出てくる、電子ブック、電子的な資料、データベースなどを利用して便利になった話について、3点目が、地域の知の収集・保存、利活用について、この3点を挙げさせていただきます。

吉野委員長 ありがとうございます。十倉委員お願いします。

十倉委員 素案を作成していただきありがとうございます。

全体を見た第一印象です。他の委員からもありましたが、これだけのことをやるのはすごく大変だと思います。高い理想で、すごくきれい過ぎるように書かれている印象を受けました。反対に言えば、千葉市図書館に実際に当てはまるのだろうか、千葉市図書館から考えるとどうとらえるのだろうか、というところがあります。内容や言葉が分かりづらいということもありますが、実際にこれだけのことをどうやるのでしょうか、という印象です。

「知の拠点」、「知」という言葉がたくさん使われていることについて、他の委員からも話がありました。そのことについては、現在、千葉県立図書館で動きがあります

が、そちらと本当に一緒です。本当に借り物という印象を受けます。具体的なイメージが全然わいてきません。

基本理念に関して、一番大事なことは、社会教育や生涯教育というところに図書館があり、市民の権利を保障するのが図書館であるということです。まず、それがあつての計画だと思います。

(P.6)基本理念の中の、知の拠点として果たすべき役割のイメージについてです。図としては模範解答だと思いますが、千葉市の図書館ではできないと私は思います。もっとできることで考えてほしいです。その辺りを、どのように考えているか、後ほどで構わないのでお話いただきたいと思います。

人でなければできない仕事、ICT の活用について、図書館はどう考えているのでしょうか。

本文に人材の育成・養成ということが出てきますが、それは一体誰がやるのでしょうか、どういう採用をするのでしょうか。民間に委託するのか、市がやるのか、その辺りもごちゃごちゃしていて分かりません。

地区図書館・分館の再編の項目に、組織のフラット化という言葉が出てきますが、再編して縮小していくということなののでしょうか。もっと小さい図書館をいろいろな所に増やしていくということなののでしょうか。また、地区図書館に特定分野の専門的な資料を揃えるとありますが、具体的にどのように実施するのか、イメージはあるのでしょうか。地区図書館・分館の再編については、いろいろと疑問があります。

(P.11)デジタル・アーキビストもよく分かりません。これは为什么呢。

資料を事前に送っていただいたのは良いのですが、期間が短く、全部読んでもいろいろと分からないところがありますので、それを調べたりするため、もう少し時間が欲しいです。

市民の意見、現場で働いている人の意見を聞いているのか、と思うところがあります。次回の図書館協議会の日程のお尋ねが来ていますが、本日、図書館協議会を開催し、もう一回図書館協議会を開催して、それでこの計画ができました、とされてしまうと納得がいきません。もっと市民の意見や現場で働いている人の意見をちゃんと聞いてほしいです。おそらく、今年度にこの計画を作るのは無理だと思います。もちろん、行政としては、決まったとおりにやらなければいけないのかもしれませんが、少し考えていただいて、もっと計画策定を先に延ばすということで良いと思います。2040 年を見越した取り組みは、施策として千葉市ですぐにやろうとするのは無理だと思います。あまり急いで計画を作らないでほしいです。

吉野委員長 ありがとうございます。倉沢委員お願いします。

倉沢委員 大変よくできた資料だと感心しました。私が特に興味を持ったのは、(P.32) 2040 年ごろまでの社会構造の変化と千葉市図書館の状況です。図書館を運営するには、どうしてもお金が必要です。千葉市の税収が大幅に減るだろうという中で、民間委託のことが書いてありますが、これからは民間委託はどうしても避けて通れない道だと思います。

クラウドファンディングの話がありました。果たして図書館が市民からクラウドファンディングでお金を集められるのか疑問です。

図書館の施設があっても、それを利用する人がいないといけないわけですから、子どもたちへの読書活動の推進は非常に重要だと思います。本の好き嫌いは、小・中学生よりもっと小さいうち、例えば 3～5 歳頃に決まると思います。(仮称)千葉市図書館ビジョン 2040 とは別に、子どもの読書活動推進に関する計画の策定が予定されているようですが、幼稚園児・保育園児に対して読書好きになるような計画を策定していただければと思います。

吉野委員長 ありがとうございます。

綾部副委員長 「知の拠点」をうたうことについてです。図書館は「知の拠点」である一方、安らぎや憩いの場でもあるわけなので、あまり「知」だけを打ち出すと偏りがあると思います。もちろん、象徴的に一言で表せば「知」ということになるかもしれませんが、図書館は生涯学習の施設なので、学びに関連しているということで良いのですが、その辺りのバランスをとった表現の工夫をしていただければ良いと思います。

吉野委員長 ありがとうございます。最後に私から発言をさせていただきます。

最初に申し上げたように、かなり充実した良い計画になっております。

全体としては、ビジョンですので 2040 年にこういう姿になっているべきだろうということを描き、それを目標としていると理解しています。具体的にどうするかは、これから施策として、個別の計画などで挙げられると思います。いろいろな委員からありました、この計画は本当にできるのか、ということに関しては、今後、個別の計画などで頑張って進めてほしいと思います。

行政の仕組み、予算、人などの問題は多々あるかと思いますが、それとは別に、書かれているキーワードは、全体的によく聞くものが並んでいるという印象が禁じ得ないです。

事例として紹介されている札幌市図書・情報館は、非常に評判が良いと聞いていますが、多くの公共図書館がそこを目指していると理解していますので、(仮称)千葉市図書館ビジョン 2040 は、割と一般的な内容になっているという気はします。地域の特性を強く押し出さない限りは難しいと思いますが、公共図書館、あるいは政令指定都市の図書館としては向かうべき方向はきちんと見れたとっております。

何人か委員からも発言がありました言葉の定義についてです。今回、話があった言葉は、「知」、「デジタル・トランスフォーメーション」、「アーカイブ」、「コンテンツ」です。この辺りは、私は割と馴染みの深い言葉ではありますが、もしかしたら市民には、まだ馴染みが薄いかもしいと思います。2040 年に向けた計画ということであれば、あと何年かすればデジタル・トランスフォーメーションなどは当たり前の言葉になっているかもしれませんが、今の段階では定義あるいは説明を概要版であっても入れていただければと思います。その他は、委員から意見を出していただいておりますので、御検討いただきたいと思います。

いくつか質問事項もありましたので、事務局から説明をお願いします。

安部中央図書館長 皆様から大変貴重な御意見をいただきありがとうございました。そして、今回、事前に資料をお送りしたとはいえ、短い期間でこれだけ読み込んでいただき、御意見をとりまとめていただいて、誠にありがとうございました。

まず、ご心配をいただいております、これから図書館はこんなに変わってしまうのか、という点についてです。本編 5 ページ第 1 節 3 行目をご覧ください。これまで構築してきた市民の読書活動を支援すること、そのこと自体は変わりません。これに加え、インターネットにはない図書館独自の強みを構築していくことと、本市の活性化などまちづくりへの貢献を行うと書いています。

続いて、本編 43 ページ(4)図書館サービスの提供、第 3 段落をご覧ください。図書資料の貸出し閲覧といった従来型のサービスに、電子書籍・デジタルアーカイブなどのデジタル情報サービスを加え、それぞれが適切なバランスで融合した図書館サービスを進めていくことが重要と書いています。

このように、これまでやってきたことをやめるつもりはもちろんございません。図書館である限り、当然、社会教育の施設です。また、子どもたちの情操教育の一助になる、教育的なセーフティネットを担う、こうしたことは図書館である限り、未来永劫変わることはありません。

しかしながら、今後のことを示した計画なので、変えていきたいところに照射しており、その部分がぎらついているのかもしれませんが。安心していただきたいのは、これまでの図書館サービスは、もちろん引き続きやっていくということです。

続いて、カタカナ言葉についてです。ご指摘いただいたとおり、丁寧な注釈や説明を加える必要があると思いますので直していきます。

「知」という言葉についてです。皆様からお話をいただきましたとおり、1 点目は本、2 点目はデジタルの資料、3 点目は図書館に集う人々の頭の中にある知識・人々が集うことで新たに生み出される知恵、以上 3 点が挙げられると思います。こういった「知」が融合した施設となり、それぞれ相乗効果を発揮できるようにしたいと考えています。

知の収集について、本気で力を注がないと実現するのは難しい、というご指摘をいただきました。今までの図書館の体制では、実現はなかなか難しいと思っていますので、知の収集に関する分野の専門的な人材を図書館として付けたいと考えています。そして、知の収集の分野は、図書館が自ら行うこともあります。そもそも市民の中には、例えば郷土史の愛好家など、既に取り組まれている方々がいらっしゃると思いますので、市民参加やボランティアを活用しながら市民と一緒に取り組んでいきたいと考えています。

知の収集は、来年度からスタートしたいと考えています。2021 年に千葉市は市制施行 100 周年を迎えます。そこで、100 周年事業の一つと位置付けて、千葉市の「知」を集める事業を開始したいと考えています。

先ほど司書の専門分野の話もありましたが、司書も一通りの知識に加え、プラスアルファでそれぞれ得意な分野があると考えています。例えば、歴史が得意、環境

が得意、国際関係が得意、古文が原文で読める、などあると思います。地域情報に精通している職員もいますので、そういった職員を「知」の収集の分野に充ててやっていきたいと考えています。

コラム～未来の図書館～についてです。こちらは、子育て中の親やシニアの方など、属性に応じて皆様にコラムのようなイメージで使っていただける図書館を目指していきたいという想いで書いたのですが、ご指摘のとおり、そもそもこのコラムは私たちのイメージであることをうたわなければいけないですし、そのことが欠けているので明確に分かる形で整理したいと思います。また、千葉市でも近年増えており、市内でも約3万人いる外国籍の方、電子書籍等にも触れていきたいと考えています。

続きまして、(仮称)千葉市図書館ビジョン 2040 に書かれていることが、ある意味きれいに見える、言い方を変えればきれいごとで実際に何をやるのか見えてこないという点についてです。行政の計画は、3か年計画や5か年計画を作り、実施していくのが基本的なところですが、ご承知のとおり、図書館の以前の大きな計画は1970年に策定した千葉市立図書館網計画です。今から50年前の右肩上がりの時代に作ったものです。今回は、それに該当するものを作りたい、ということでこのような形にしています。

なぜ、このタイミングなのかというと、千葉市は来年をピークに人口減少に転じることが予想されているからです。現在、時代の画期にある中で、大きなトレンドを踏まえた計画を作りたいということです。そこで2040年までに実現したい図書館像を掲げて、そこに至るために実施計画をたて、毎年度、予算を付けて実施していきます。そうした元となる羅針盤を作りたいため、理想は高く望んでいきたいと考えています。

いろいろな図書館の良いところ取りのような部分があることについてです。今年度、着任してから、ゆいの森あらかわ、武蔵野プレイスなど実際に図書館を見学し、図書館職員の方と意見交換をしました。その中で、これまでの図書館の良さは保ちつつも、先進のものも取り入れていけない部分があるということもあり、2040年を目指したときには、そうした両方を取り入れていけるような形で考えています。

「知の拠点」という表現、千葉県立図書館もそのようにうたっていることについてです。広域自治体である県の「知の拠点」と、基礎自治体である市町村の「知の拠点」はレベル感が違うと思います。県の図書館は、県全体を見て、学術的にも専門的なものを入れる部分があると思います。市の図書館は、ローカルでするのである意味、地に足の着いた「知の拠点」であるべきだと思います。

例えば、ある地域において何か困りごとがあったときに、別の地域では解決した事例があるかもしれません。そういう情報を集めて他の地域で活用できれば、地域づくりの一助ができるかもしれません。そういった地に足の着いた「知の拠点」づくりをしていきたいと考えています。

職員の人材育成については、これから人材育成の方針を作成したいと考えています。一つの先例として、横浜市ではこうした人材育成の方針を作っています。人材育成の方針を作成し、それに則って職員を研修・育成していきます。職員の育成

に当たっては、内部の優秀な職員に講師をお願いする、あるいは他市のカリスマの図書館員や大学の先生に来ていただきお話をいただくということもあると思います。

さきほど「知」について、本、デジタル、人とお話をさせていただきましたが、人の中には図書館を利用していただく市民の皆様も当然そうですが、職員・司書も含まれると思います。司書にもっと活躍していただけるような場を作りたいと考えています。

再編やフラット化については、これから議論していきますが、その中でも特定分野の専門的な資料を揃えた図書館について述べますと、例えば、政令指定都市全 20 市中、8 市にこども図書館が設置されています。例えば、こども図書館を作るといことも、検討材料の一つとしてあるかと考えています。

(仮称)千葉市図書館ビジョン 2040 を作るに当たって、少し拙速ではないかというお話がありました。前回 8 月に図書館協議会を開催し、今回 12 月に素案をお示ししているので、そのような部分があるかもしれません。ご存じのとおり、昨年度、千葉市図書館に関する市民意識調査を実施しています。市民意識調査では、約 1,000 件の回答をいただいております。その概要は(仮称)千葉市図書館ビジョン 2040 の中でもお示しをしていますが、そういった結果を踏まえています。また、今年度 9 月に開催した「未来の図書館を描くシンポジウム」でも、約 200 件の意見をいただいております。現場サイドとしては、新しい図書館計画を作るに当たり、何かアイデアはないか、ということで職員提案を行った結果 62 件の意見がありました。そうしたことを踏まえて作っているところです。

こどもたちの読書環境の充実についてです。来年度、第 4 次子ども読書活動推進計画を作りますので、その中で具体的な内容は記載したいと思います。策定に当たっては、これまで実施してこなかった、こどもへの意見聴取を行いたいと考えています。また、幼稚園や保育園に通う段階から読書好きにする必要があると思います。小学生の読書活動などを見させていただきましたが、小学生で読書好きの場合は、小学校入学前に読書活動へのアプローチが見られるということがありますので、早い段階から読書に慣れ親しんでいただけるような状況を作っていく、そのための第 4 次子ども読書活動推進計画を作成したいと思います。

皆様からの御意見に対して、今のところお答えできるところを回答させていただきました。

吉野委員長 説明ありがとうございました。これを受けて意見等お願いいたします。

十倉委員 説明ありがとうございました。これまでの図書館サービスは引き続き行い、その上で新しいことを行うという話ですが、図書館の再編について基本目標達成後のイメージ図を見ると、地区図書館の館数が減るのでしょうか。それから図書室のない公民館についても書いてあります。また、土気図書室から民間に委託ということもあります。もし、図書館の館数が減れば、その地域で図書館サービスを受けていた人たちは、図書館サービスを受けられなくなります。図書館サービスの拠点に行けない人たちはどうするのでしょうか。それは問題だと思います。まず、それをお答えください。

安部中央図書館長 これまでの図書館の良さというのは、職員の良さもあると思います。皆様から、市直営について評価していただいておりますが、一方で市直営を全て続けることは、コストがかかるということが現実としてあります。千葉市図書館の運営経費は年間約 15 億円です。そのうち 11 億円は人件費であり、これは図書館運営費の 73%に相当します。以前にもお話をしたと思いますが、千葉市民一人当たりの借金が 101 万円ある中、どのように展開していくか考えると一部民間委託を導入していかないといけない部分があると考えています。民間委託については、資料にも記載がありますが、例えば窓口業務を民間委託し運営経費を増やさず開館日や開館時間の拡大を求めるような声も多数あります。

9 月に開催した未来の図書館を描くシンポジウムのアンケートにも、書店がどんどんなくなる中、これから図書館の役割も変わらないければならない、これまでの行政が管理する図書館ではなく、民間の活力を活かしたイノベーションが必要、などの意見もいただいています。広島市は全ての図書館に指定管理者制度を導入しています。そういうやり方も一つにはあると思います。しかし、これまでの市直営の良さがあるということは間違いありませんので、千葉市では市直営の良さを残しつつ、民間委託を入れられるところには民間委託を入れて運営経費を減らしていく、それによって捻出された費用は図書・資料の購入にも充てられます。

そして、これからデジタル化も進めていくと当然お金がかかります。デジタル化といっても、全てをデジタルにするわけではなく、当然、紙の本も買いますので、本プラスデジタルになります。それにはお金がかかるのは間違いないので、費用捻出という意味でもそういったことをしていかなければならない部分があります。

図書館の館数についてです。千葉市の図書館は 15 館ありますが、老朽化しているところもあります。老朽化している施設については、一旦壊して、建て替えるとなると、どんなに小さくても 2 億円はかかります。皆様も重々承知と思いますが、これからの時代はハードの整備にお金をかける時代ではないと思われれます。民間の商業施設や、ショッピングモールの空いているスペースに図書館を入れさせていただいて相乗効果を狙っていくということもあると思います。図書館の館数を減らしていくということは、今のところ考えていません。館数ということではなく、図書館サービスを提供するということについては、ある程度近くでサービスを受けられることが重要だと思いますので、数を減らさずにいきたいと考えています。場合によっては、駅前や図書館の空白地帯については、予約した本だけ貸してもらえれば良い、返却については返却ポストの機能だけあれば良いということもあるかもしれません。今のようにフルサービス型のものを作っていくのは無理ですので、サービスの在り方を踏まえて、市民の図書館サービスを低下しないような形でいきたいと考えています。

十倉委員 話はよくわかります。人件費が今はすごくかかっていることもわかりますし、委託した方が良いのではないかという意見もある、それもそのとおりだと思います。ただ、小さい図書館ほどやはり人が大事です。ただ人がいれば良いということではなく、利用者がどう利用したいのか、ちゃんと捉えて的確に対応することが必要です。小さい

図書館の方がいろいろな事を知っていないと無理です。例えば、窓口業務を委託しているみずほハスの花図書館では、近くに瑞穂小学校がありますので、おはなし会について図書館に協力の依頼がきますが、みずほハスの花図書館にいる人たちだけではスキルが足りないため、おはなし会に対応できていません。そこで、中央図書館のOBや担当がおはなし会の補助に行っています。話を聞くと、事業者の方も2年ほど経つと、少しずつレベルが上がってきているようですが、その方がずっとそこにいてくれるかわからないですし、事業者が代われればその方はいなくなってしまう。そういう事を、長い目で見たときに、図書館にとってどうなのか考えてほしいと思います。

安部中央図書館長 ある意味、図書館職員を評価していただいているということだと思いますので、図書館を預かる者としてありがたいと思います。

例えば、おはなし会については、スキルの不足があるのかもしれませんが、しかし、実際にみずほハスの花図書館で行いました昨年度のおはなし会の回数は年間29回です。これに対して、千葉市の直営館で行いました昨年度のおはなし会の回数は、館によって違いますが4回から16回です。みずほハスの花図書館は29回ですので、市直営館の倍の回数を実施していただいています。ただし、数ではなく質ということもあるかもしれませんが、そういう実態もあります。

おはなし会について税金を投入して市職員や民間の方がやっていく部分もあると思いますが、2040年を見据えてということになると、私見ではありますが、もしかしたらこういう分野は市民社会に馴染んだ分野ではないかと思っています。市民の皆様の中で、ボランティア団体でやられている方々がいます。やりがいを持って、生きがいとしているのであれば、そういった方々にさらに活躍していただく場であるのではないかと思います。

また、市直営の図書館でも、ご存じのとおり、長い目で見ると人事異動もございませう。そういう中で実態を申し上げますと、市直営の図書館の司書資格の保有率は27.2%です。それに対して、みずほハスの花図書館の司書資格の保有率は50%です。司書資格を持っているだけでは使えないということもあるかもしれませんが、みずほハスの花図書館では、こうしたことも達成しています。これから民間に委託することがあるとすれば、司書資格の保有率などを条件付けることで、単純労働の人材に就いてもらうのではなく、専門性の高い人材に就いてもらう形を考えていきたいと思っています。

小さい図書館ほど人が大事という話がありました。私自身、全ての図書館・公民館図書館を回って見て、小さい図書館だからこそface to faceの関係があり、人が大事だと思いました。秋にパシフィコ横浜で行われた図書館総合展に行ってきましたが、指定管理者という、民間事業者が担うパターンも当然ありますが、事例として住民の皆様が組織したNPO法人が指定管理者を担うパターンが紹介されました。例えば、山形県新庄市、長野県小諸市、愛知県津島市、鹿児島県志布志市では、住民の皆様が組織したNPO法人が指定管理者として運営しています。指

定管理者を受託している住民の方が来て報告されていましたが、住民目線だからこそそのきめ細かなサービスを展開していました。

これは完全に私見であります。場合によっては、これだけ図書館に関心を抱いている例えば、としょかんふれんず千葉市さんや千葉市文庫連絡協議会さんの方に、どこかの分館を担っていただくという展開も長い目でみるとあるのではないかと、むしろその方が良いのではないかと思います。他の自治体の成功例を聞きますと、本当に本が好きなたちなので、こういう展開を 15 館のうちの何館かでやってみるというのも、もしかするとあっても良いのではないかと、私見ですが思ったところです。

平岡管理課担当課長 みずほハスの花図書館の委託事業者のおはなし会についてです。

市直営の図書館でも悩ましい問題を抱えていまして、(P.41)こどもの読書活動推進体制にも書いていますが、ベテランの職員が退職により少なくなってきており、みずほハスの花図書館に指導に行っているのも、千葉市の図書館で児童サービスを長く担当した OB の職員です。そういう経験の長い方を基準に見るとまだまだということなのかと思います。

市直営の図書館でも、ベテラン職員の退職や担当職員の異動などがあり、特に児童サービスなど高い専門性が要求される分野の人材育成は十分ではないと思います。

「知の拠点」にはいろいろな要素があると思いますが、先ほどお話がありましたこどもの読書活動はとても大切ですので、年代に応じた取り組みをしっかりとやっていかないといけない、そのためには人材の育成はとても大事だと考えています。来年度に作成する子ども読書活動推進計画では、この辺りについても、どのように取り組んでいくかしっかり考えていきます。

石渡委員 説明ありがとうございました。こどもへの支援は未来につながりますし、本当に重要な部分だと思えます。そこは市が責任を持ってやっていただきたいと思えます。もちろん私たち市民も協力したい気持ちはありますが、まず職員の育成などをしていただきたいと今までも申し上げていたと思えますが、あまりそういう意見が反映されていないのが大変残念です。人材の育成は時間がかかり、今すぐにはできないと思えますが、これから 20 年後の計画ですので、20 年後にそういうことが起きないように、今から大事な人材にお金をかけてほしいと思えます。

計画を見ると、どうしたらよいのかよく考えて作っていただいているとは思いますが、概要版の裏面の「回転数が低い蔵書」という言葉をどうとらえたらよいのだろうかと思いました。図書館の資料は、回転数が低い・高いということが、そもそも指標になるのだろうかと思えます。公共の図書館がどういうポイントなのか、よく考えていただきたいです。

有識者の方にもお話を伺っていると思えますが、公共図書館の専門の方が、たくさんいらっしゃいますが、そのような方から意見を聞く機会はありませんかと思うので、公共図書館の専門の方の意見をもっと反映させてほしいと強く思います。

吉野委員長 ありがとうございます。他に御意見はございませんでしょうか。

綾部副委員長 概要版の基本理念のイメージにある赤い 2 つの丸「知の収集・保存」、「知の利活用」について意見をしたいと思います。

冒頭に掲げている地域の知の収集・保存は、非常に重要なことだと思います。安部中央図書館長が仰ったように、地域の歴史を研究されている方の会報等を収集すること自体には労力がかかりますが、集めることは大事ですし、地域資料として提供することも大事だと思います。それから更に進めて、スキャナーなどで電子化して集積・公開することは、なお大事だと思います。

単に電子化するだけでは、世の中にある膨大なデジタル資料の中に埋もれてしまいますので、検索できるシステムを作らないといけません。検索するために必要な、書誌データやメタデータを作成する作業になりますが、リポジトリを構築する事業は、他の図書館の事業と比較して、小さい予算でできると思うので、是非実現可能な目標としてやっていただきたいと思います。

集める資料ですが、千葉市史を編纂したときに、おそらく膨大な資料があったと思います。それらは千葉市のコンテンツになりますし、電子化して公開できるものも多数あると思いますので、公開すると研究家にとって非常に重要な資料になります。また、聞き取り調査をすることは、よくあると思いますが、文字起こした文章、あるいは音声データなどもデータベースに入れていただくこともとても重要です。

知の利活用についてです。本編(P.13)に、中央図書館について空いたスペースを知の拠点に相応しい学習空間として有効活用するという、記載がありますが、地域の小さな図書館については、その点に触れられていないのが残念です。小さな図書館ではスペースに限界がありますので、具体的には公民館の活用が挙げられると思います。公民館との連携に関する項目もありますが、場の活用については触れていなかったのも、是非触れていただけたらと思います。

吉野委員長 ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

十倉委員 民間委託に何でも反対と言っているつもりはないのですが、みずほハスの花図書館の経緯を見ると、私たちはあそこに図書館ができると聞いて、まず喜んでいました。地域でもそれを支援する会もありましたし、長年の夢だった図書館ができたことは本当に良かったと思います。私たちは小さな子どもたちが集まる会を何回か開かせてもらい、ここに図書館ができると地域の方にも声をかけたし、とても嬉しかったです。ところが、本当に直前に窓口業務委託になると聞いて、自分たちの地域の図書館ではない、というのが第一印象でした。今でも、そこでいろいろ協力している市民もいますが、なかなか自分たちの図書館とは思えないという声を聴きます。何が言いたいかというと、窓口業務委託に賛成する声もあるということでしたので、もしそういうことになるのであれば、市民に早く知らせてほしいです。それを聞いたからまず反対となるのではなく、私たちもどうとらえたらよいかよく考えて、それで意見交換するなど、そういうことを是非していただきたいと思いますし、突然市民のものではなくなってしまうようなことにはならないようにお願いします。

倉沢委員 私はみずほハスの花図書館のそういう経緯を知らないのですが、民間委託して

何が問題なのですか。具体的にお願いします。

十倉委員　もちろん良いこともあります。今のところは、利用しやすいという声が多いかもしれませんが、私が思う一番の問題は長い目で見た継続性です。3年や5年で業者が代わり、人も代わる、そういうことが2040年を見据えるということとマッチするのでしょうか。

市直営の図書館と利用した感じを比べると、例えば調べものや相談をするレファレンスについては、中央図書館では的確にお答えいただけることが、なかなかみずほハスの花図書館では相談できないこともあります。

みずほハスの花図書館に関わって感じたことや、協力している人たちの声を聴くとスムーズにいかないということです。私たちが中央図書館のこども読書まつりで協力するような感じではできません。倉沢委員にそのあたりのニュアンスがうまくお伝えできなくて歯がゆいところです。市直営の図書館とは違いみずほハスの花図書館に行くとお客扱いされますが、私たちはお客様ではなく利用者です。

倉沢委員　今の話で分かったのは、レファレンスが上手くないということです。あとこども読書まつりで何か問題点があったのですか。

石渡委員　雇われ方が違うので動きが違います。本人の意思ではお話ができないので、図書館の方にお伺いしてから話します、雇われているので私には分かりません、ということになることがあります。

司書の資格を持っていても、そこに来ただけで数年しかいないとなりますと、継続性がないので、地域との密接な関わりもありません。その方自身の経済性も困難だと思います。正職員ではありませんので、身分の保証はなく、そうすると継続して仕事をするのが困難な場合もあると思います。司書の資格を持ち、力があっても、活かすきれない場合があるかもしれません。

図書館の専門職がないということが、私は一番の問題だと思います。市民は専門の職員を求めて図書館に行くと思います。パートのように働いている方では、その場所にしっかりと根を据えて何十年と働いていた、かつてのOBの方々のような信頼関係がないと思います。十倉委員のご意見は、ずっとその場所において、名前がわかっている職員がいることが安心感につながる、そういう意味で仰ったのだと思います。

先ほどからいろいろとお話がありました、おはなし会のスキルについてです。おはなし会のスキルは、話し方が上手とかそういうことではなく、この本をこの子に渡したい、そういう勉強をしているかどうかが一番大きいと思います。頭でっかちに勉強しているということではありません。おはなし会は、ただこどもが楽しむようにするだけではなく、こどもが本に親しくなるように、本が読めないこどもでも人の声を通じて、本の内容を伝えるという意味でおはなし会をしています。少し難しい文章でも人が話すと分かるので、こんな本にこんなことが載っているから読んでみようかな、と伝えられるようにおはなし会があります。ただ楽しく時間を過ごせたからいいね、ということではなく、その子の未来に伝わるようにおはなし会をしているので、そういった意味を全て通してのスキルだと思います。お話の仕方が上手とか、大きな声で上手に話せたとか、

そういうことではなくて、もう少しいろいろな資料で勉強をしているか、ということで倉委員は仰られたのだと思います。

倉沢委員 おはなし会について、例えば学校を退職された元教職員の方や、市民の高齢者の中にも本や図書館に関わった方がいると思うので、先ほどお話にありましたが、NPO 法人などを立ち上げて、そういうスキルのある方におはなし会を担当してもらうというのはどうなのでしょう。

石渡委員 もちろんそういった方はたくさんいらっしゃいますが、急に人は育ちませんので、若い職員の方が育てていただくことが大事だと思います。図書館にとっては、おはなし会をするだけでしたら今いらっしゃる方でまわすことはもちろんできると思いますが、これから先を考えると今の若い人が育つように、今 20 歳なら 20 年後に 40 歳になりますし、40 歳なら 60 歳になりますので、今だけではなく先のことを見据えていただきたいと思います。

松尾委員 以前にも申し上げましたが、これから図書館の存続をかけるときに、人口減になると職員の数もかなり減ります。図書館の司書としての専門職の体制は組織的にはありませんので、人を育てるということは難しいわけです。どこかで専門的な人材を雇うなどしないといけないということがあります。私が保育の現場にいるときの出生数は、約 8,500 人ありましたが、平成 30 年の出生数は 6,389 人です。これだけこどもの数がガクッと減ってきていて、人口が減ると税金を納める方も少なくなりますし、職員の数も減らされていきます。

図書館の職員も、図書館をなくして良いなんて誰も思っていないので、一般の方たちや、財政と戦うわけですが、例えばこういうビジョンがなければ、何に予算をとろうとしているのか、という話に当然なりますし、ビジョンや計画性がないものについて予算はつけられません。だから理想的のかもしれませんが、こうしたビジョンを立ち上げて、こうしたことをやっていきたいということを打ち出して、そういう中で資料費などを捻出していくということは必要になると思います。人がいないから図書館がなくなります、ではまずいんですよね。図書館を存続させていくための方法として、小さい図書館もありだよね、地域に図書館を残すべきだよね、そういう視点に立った時に、どうやって地域に図書館を守っていくかということを、図書館側は懸命に考えていると思います。

吉野委員長 ありがとうございます。

安部中央図書館長 いろいろと議論していただきありがとうございます。

みずほハスの花図書館については、様々な見方があると思います。エピソードベースでの皆様の体験での御意見はとても大事なものがあると思います。一方、エビデンスベースで、数字で出ているものもごさいます。本編(P.65)、みずほハスの花図書館の利用者アンケートの結果を記載しています。3(1)ウ 満足度 91.8%、(2)ア(イ) 民間事業者の窓口対応が良い 95.0%です。逆を言えば 5.0%はそうではない、という方もいますが、こういった評価をいただいています。評価の取り方について議論があることはもちろん承知しています。しかし、9割は肯定的に答えているとい

う事実もございます。これも市民の声です。

一方で、市直営館についてですが、中央図書館についても、日々、意見箱などに御意見が寄せられています。その中には、職員の対応が悪い、レファレンスに対してインターネットで答えられるような内容しか答えてくれない、民間委託してしまえ、といった意見もございます。

これらは両方が事実であり、市直営の良さと民間の良さと両方あると思います。民間活用については特に武雄図書館が開館したときに、最初はずごく持ち上げられたが、実態はこうだった、ということがあったかと思います。言うなれば、図書館の民間活用の第一世代です。

今は、他の政令指定都市では業務委託や指定管理者に切り替えているところが多いですが、課題はあまり聞かれなくなってきました。言うなれば、民間活用の第二世代となっていて、第一世代において起きた誤りや不具合を直しながら展開しているところだと思えます。

民間委託を導入していくに当たっても、皆様が心を込めてみずほハスの花図書館の開館を迎えようとした、それなのに突然、自分たちの地域の図書館ではないというような印象になってしまったとすれば、これからはそういうことのないように、地域の財産として皆様に受け入れていただけるような展開をしていきたいと思っています。

また、事業者を選定する際に一番良い提案をした事業者に委託をするわけですが、提案した内容とは違い、実態が悪い内容であれば、当然、契約上は契約解除になり、悪質な事業者の場合には退場していただくこととなります。そういうことで市直営と民間のベストミックスを図っていききたいと思っています。

吉野委員長 ありがとうございます。今日はいろいろ御意見をいただきありがとうございました。次回、第4回図書館協議会を予定しております。あと1～2か月になりますが、十分検討いただいて、案を作ってくださいと思います。本日、予定していた議事は以上になります。事務局から何かございますか。

進行 事務局から連絡します。次回の図書館協議会についてです。2月に令和元年度第4回図書館協議会を開催したいと考えています。日程は調整させていただきますので、決まりましたら改めてご連絡いたします。事務局からは以上です。

吉野委員長 ありがとうございます。それでは以上をもちまして本日予定しておりました議事は終了します。限られた時間の中で、貴重な御意見をいただきありがとうございました。また、議事の進行に対して、皆様の御協力をいただき誠にありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しします。

進行 ありがとうございます。本日は慎重なる御審議をいただきまして誠にありがとうございました。以上をもちまして、令和元年度第3回図書館協議会を閉会いたします。なお、本日の議事録につきましては、事務局で議事録案を作成しまして、委員長の承認をいただいて確定するということでよろしいでしょうか。確定しましてから、委員の皆様にお送りさせていただきます。それでは本日は長時間にわたりまして、慎重なご審議をいただきまして誠にありがとうございました。

<閉 会>

【問い合わせ】

千葉市教育委員会事務局

生涯学習部中央図書館管理課

TEL 043-287-4081